

三中だより

令和5年度 1月号



令和6年1月9日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 13)
校長 小柴 憲一

令和6年になりました。 今年もよろしくお願ひいたします。

あっという間の中学校3年間 ～一年一年でめまぐるしく変わる～

令和6年になり、令和5年度もあとわずかになりました。

お子さんたちも、あと3ヵ月で年度を超えることとなります。

1年生は、今まで学校に慣れることから始まり、運動会・清里移動教室・輝汐祭などの学校行事や地域のボランティア活動に参加しながら、三生らしくなってきました。しかし、もう下級生を迎え入れる時期がやってきました。今の1年生のお子さんが、入学後、先輩たちが大きく見えたように、今の1年生もたくましく頼りがいのある先輩にならなければなりません。学校生活では、先輩になる準備ができるよう、言われる前にできる1年生、先輩に頼ってばかりいない1年生、些細なことで友達とトラブルを起こさない1年生にしていけます。

2年生は、すでに学校の中心となっていますが、もうすぐ最上級生になり、部活動も時間の問題で引退の時期がやってきます。そして、進路選択という大事な分岐点が近づいてきています。ですから、1・2年生の模範となるよう三中の顔として活躍してもらわなければなりません。学校生活では、運動会や修学旅行など中学校生活最後となる学校行事で良い思い出をつくらせ、納得のいく部活動の引退を経て、中学校卒業後の新たな入り口探しのために全力を尽くせるようにしていきます。

3年生は、受験などを経験して三中を卒業し、新たな道を進んでいくこととなります。その道が、第一志望なのか、第二志望なのか、あるいは第二志望未満なのかは結果が出てみなければ分かりません。しかし、どのような道に進んだとしても、そこでどれだけ前向きな生活をして、新たな自分の軌跡を描いていくかが大事だと思うのです。学校生活では、合否などの結果にかかわらず、「進んだ道で精一杯の生活を送る」ことを指導してまいります。

ご家庭におきましても、お子さまの学年に合わせて、学校と同じ歩調で、保護者に頼ってばかりいない1年生にしたり、最上級生になる覚悟をもった2年生にしたり、三中から離れた場所で自分の力を最大限に生かせる3年生にしたりなど、ご協力をいただければと思います。

こうして考えると、中学校の3年間というのは、あっという間であり、その学年により立場や役割がめまぐるしく異なってくるのがお分かりかと思いますが、どうか、お子さんが、過ぎていく時間と、その時々のできごとを大切にされた家庭生活・学校生活を送ってほしいと思います。

ちょっと背伸びをすれば届くような目標を

新年を迎えたときや、進学・進級したときなど、自分を変えられるチャンスで、年に1回は来るような頻度の高い人生の節目では、「私の将来の夢」のような長期的な大きな目標を設定するものではありません。このような場合、ちょっと頑張れば達成できるような目標を設定することが効果的です。

なぜなら、長期的な大きな目標を掲げたとしても、何をしたらいいか明確ではないため、ただのお飾りになってしまうからです。ちょっと頑張れば達成できるような目標設定ならば、何に力を入れればいいのかははっきりとしているとともに、膨大な苦勞を伴う努力ではなく、今までよりも少し努力をしていけばいいのですから、達成する確率は高くなるし、それと同時に充実感を味わうことができるからです。

つまり、その目標が具体的で現実的になればなるほど、やるべきことがより明確になり、努力して実現に近づいていることに伴い、日々の生活にも好循環が生まれてきます。

例えば、

×すべて正確なトスを上げる

⇒○きれいに返ってきたレシーブに対しては、正確なトスを上げる

×リバウンド勝負では絶対に負けない

⇒○フロントコートで取ったりバウンドは、50%の確率で得点につなげる

×打撃の飛距離を伸ばす

⇒○体の開きを早くせず、ミートすることに集中し、速い打球を打つ

×5教科すべて90点以上とる

⇒○得意な国語と社会は90点以上をキープし、苦手な数学と理科は75～80点を目指し、英語は今の80点台を目指す

×授業中は決してしゃべらない

⇒○授業中にしゃべってはいけないときと、発言すべきときが区別できるようにし、発言すべきときにはルールを守って発言をする

×毎日家族の朝食の準備をする

⇒○学校が休みのときは、早くに起きて家族の朝食の準備をする

のように設定することです。

これらを、「ちょっと背伸びすれば届く目標」と言います。背伸びをするのも大変なことです、ちょっとの背伸びを続けていくうちにそれが習慣化されたり、目標に近づいていくことを実感したりしていくものです。

授業を理解することが学校では最も重要 ～今年度の復習を～

勉強が分からなくなって「登校しぶり」を始めた子どもが、「勉強が分からないから学校に行きたくない」と言ったとき、保護者の方は「分からないから行かなくちゃいけないでしょ！」と言いたくなると思います。それは、保護者としては至って当たり前の心情です。なぜなら、「子どもに義務教育を受けさせる」という責任を果たそうとしているからなのです。

しかし、子どもにとってはどうでしょうか。「分からない授業をずっと受け続けているつらさを分かってくれない」「学校にいても休み時間以外は面白いことなんかないのに」「分からなくても、どこが分からないのか自体が分からないのに」「友達に聞いても分からないからもっとつらい」など、子どもなりの強い困り感を抱いていることでしょう。

分かるようになりたいのに勉強が分からず登校しぶりになったお子さんの、保護者の心情とお子さんの受け止め方にはかなりの乖離があるようです。

令和4年度の全国調査によりますと、国立・公立・私立の中学校の不登校の主たる要因は

- 1 無気力・不安・・・52.2%
- 2 生活のリズムの乱れ・遊び・非行・・・10.7%
- 3 いじめを除く友人関係を巡る問題・・・10.6%
- 4 学業の不振・・・5.8%
- 5 親子の関わり方・・・4.9%

となっています。

52.2%を占める「無気力・不安」の中には、精神疾患があったり、対人関係の構築が困難だったり、家庭環境に課題があったりする場合がありますが、スマートフォンなどのインターネットを使ったゲームやSNSにのめり込んでいる場合、学校に行くことに意義を見いだせない場合もあります。後者の2つの場合は、学校で授業を受けることに強い抵抗感を抱いていなければ防げたかもしれません。つまり、主たる要因の「学業の不振」は5.8%ですが、「無気力・不安」に至った原因が「勉強が分からなくなった」というケースを含めると、勉強が分からなくなってきたから登校しづりになったという割合はもっと多くなっていることが予想されます。

中学校では、小学校よりも各教科の学習内容がより専門的になってくるため、教員が個に応じた指導を充実させても勉強について行けなくなってきてしまうことは、珍しいことではありません。しかし、そのような子どもでも、運動が得意で運動部で活躍していたり、友人関係のリーダー的存在で自治活動の中心になったりしている場合は、その子どもにとっての学校での居場所があり、学習についても友達の援助を受けながら楽しく過ごしていけます。しかし、人間関係の構築を得意としていなかったり、集団生活を送る上での牽引力などが欠如したりしている子どもは、学校生活を送る意義を見いだせなくなり、長期欠席になってしまう可能性が高くなってしまいます。

登校しづりのお子さんでも、運動会や宿泊を伴う行事には参加するというケースもありますが、学校生活の大半を占めているのは、学校行事ではなく通常の授業です。ですから、学校生活を送る上で学習に力を入れることは、登校しづりを防いだり、進路選択の幅を広げたり、交友関係を円滑にしたりするなど、問題を解決したり、学校生活の好循環を生み出したりすることになるのです。

また、「授業内容が分からない」という状況は、登校しづりを招いてしまうだけではなく「できない」「分からない」という体験をし続けてしまうために自己肯定感が下がるだけではなく、子どもによっては勉強が分からないために、授業中に他の子どもにちょっかいを出して教員から注意を受けるといふ、さらにマイナスの体験も重ねてしまうことになります。また、子どもによっては三中の同級生と交流することが困難になり、例えば小学生と遊ぶようになり、時にはその小学生にいやな思いをさせたり、逆に小学生から利用されたりしてしまうこともあります。

ですから、勉強することはとても重要なのです。

新しい学年を迎えるに当たって、今年度の学習内容をお子さんは理解しているでしょうか。

もし、不十分な教科や単元がある場合は、しっかりと復習させてください。「不十分だ」と把握できるかどうか、お子さんにとっては自分を振り返る学習になるのです。

なお、明らかに著しく全ての授業のスピードや学習内容についていけない状況がある場合は、荒川区教育センターで心理検査を受けることも、選択肢の一つとしてご検討ください。仮に、その結果で、「通常学級に就学していることが困難を来している原因だ」という所見が出た場合は、特別支援学級に転籍することも手続として進められる可能性があります。

そして、転籍できた場合は、少人数で一人一人に応じた学習内容を一人一人のペースで進めることができるので、「できた」「分かった」という自己肯定感が高まる体験を積むことができるようになり、お子さんにとっては、将来的には適正な就学だったと思えるケースもあります。

このような場合は、本校のスクールカウンセラーにご相談いただくとともに、転籍を考え始めた場合は三組の教員にもご相談ください。

令和6年度から「情報配信メール」の廃止 ～スクリレに一本化～

荒川区教育委員会では、現在使用している情報配信メールを今年度限りで廃止します。

そして、来年度からはスクリレを通して保護者の皆様に荒川区教育委員会からの情報を提供することとなります。つきましては、現在の1・2年生につきましては、来年度の始業式にスクリレの登録案内書を配布しますので、確実に各ご家庭で登録作業をしていただくようお願いいたします。

また、最近の荒川区教育委員会からの情報配信メールは「区内警察署からの情報です。…」という内容がほとんどですが、スクリレにはそのような未読通知がたまってくると思います。

未読通知の中に、荒川区教育委員会を始めとして、学校やPTAからの重要なお知らせなどが紛れていることも考えられますので、見過ごすことのないように慎重に既読にしてください。

お知らせ

- 第16回「あらかわお弁当レシピコンテスト」において、以下の成績を収めました。

賞	学年	氏名	お弁当のタイトル
佳作	1	今西 理沙	初めてのお弁当
	1	小林 美月	お母さんに向けて栄養弁当
	1	須田 蘭成	～家族に感謝を伝える焼き肉弁当～
	1	岡崎 愛	暑い夏にも負けない巻き巻き弁当
	1	河村 紗希	「部活応援！弁当」
	1	前田 万葉	食欲UP！夏野菜たっぷり弁当
	1	山際 希乃羽	暑い時こそたくさん食べよう！ 夏バテ防止弁当
	1	井上 乃々蘭	がんばれ弁当
	1	齊藤 絵実理	お姉ちゃん ファイト弁当
	1	丹野 綾音	祖母専用 これで夏に負けない！ “梅弁当”
	1	飯野 愛麻	1人でも作れる！！「栄養バランス満点弁当！！」
	1	城崎 千寧	早く食べたい！！好きなものオンリー弁当
	1	竹本 理桜	キャンプの思い出いっぱい弁当
	1	藤永 夢心	家族との思い出で弁当

- 第13回「荒川区図書館を使った調べる学習コンクール」において、以下の成績を収めました。

賞	学年	氏名	作品名
校長会賞	2	杵島 輝	少子化が止まらない！？
	2	小池 帆夏	すべての人にやさしいユニバーサルデザイン
奨励賞	2	桑原 希	ヤングケアラー —「理解する」ということ—
	2	湯浅 梨央	少子高齢化 2人で1人分…

- 第17回「あらかわ小論文コンテスト」において、以下の成績を収めました。

賞	学年	氏名	題名
教育委員会賞	3	高橋 美安	日本の公用語を英語にするべきか
	3	伊藤 紗英佳	十人十色の尊重 ～違いこそ個性～
奨励賞	3	安藤 珠希	世界共通の「習慣」をつくるために
佳作	3	落合 翠	人間の愛と戦争
	3	佐藤 詩音	“違い”を受け入れるために

- 荒川区中学生新人卓球大会において、以下の成績を収めました。

男子団体戦 第1位
男子個人戦 第3位 荒巻 大和、廣橋 拓海

- ソフトテニス第8回ARAKAWA杯において、以下の成績を収めました。

男子ダブルス 第5位 加藤 敬徳・鴨崎 湊久 組